

## 有明海水産資源回復技術確立事業\*

### タイラギ等適正生息環境調査(タイラギ稚貝移植モニタリング)

山口 大輝

佐賀県では、有明海沿岸3県および国と連携し、2018年度からタイラギ稚貝の移植による母貝集団の創出に取り組んでいる。本報では、2023年度に実施した移植の概要とその後の追跡調査の結果を報告する。

#### 方法

##### 1) 稚貝移植

2023年度の移植は、2023年9～12月に、定点AおよびBで実施した(図1)。移植には、当センターと福岡県水産海洋技術センターで生産した稚貝、また、熊本県水産研究センターから還送を受けた稚貝を用いた(殻長約50～100mm)。食害・散逸対策として、ネットロンネット(目合い8mm)で作成した四角形のカゴの各辺に、直径10mmの異径鉄筋を結束したもの(図2;ネットロンカゴ)を被せた。移植数は150個体/区とし、カゴの大きさは0.85m(縦)×0.85m(横)×0.2m(高さ)とした。

なお、調査時に、ネットへの付着物や砂の堆積があった場合は、ネットの交換や付着物除去等の移植区画の維持・管理を行った。

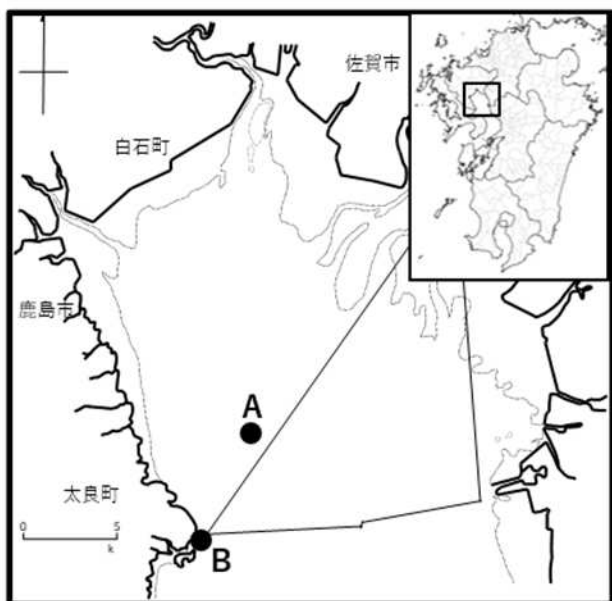


図1 移植および調査定点図



図2 ネットロンカゴ

##### 2) 追跡調査

移植したタイラギの追跡調査を行った。月に1回程度、追跡調査区画の生残率を調べた。また、定期的に殻長測定を行った。

#### 結果

##### 1) 稚貝移植

表1のとおり、人工貝計5,160個を沖合の定点Aと干潟の定点Bに移植し、母貝集団の創出を図った(表1)。

##### 2) 追跡調査

各地点の生残率および平均殻長の推移について図3, 4にそれぞれ示した。タイラギの生残率は、定点Aでは令和6年2月時点で斃死個体は確認されず、100%で推移している。定点Bでは、移植の翌月に1個体の斃死が確認されたものの、それ以降は、斃死が確認されず、令和6年2月時点で高生残を維持している。また、平均殻長は、両地点ともに順調に推移し、定点Aにおいて149mm(2月時点)、定点Bにおいて139mm(1月時点)である。

\*国委託事業名:有明海特産魚介類生息環境調査(佐賀県沖)委託事業

表 1 稚貝移植状況

移植時期	定点	稚貝の由来	個数	殻長
9～10月	AおよびB	熊本県水産研究センターからの還送群	260	約100mm
11月	AおよびB		3,400	約50mm
12月	AおよびB	当センター及び福岡県水産海洋技術センター生産群	1,500	約50mm

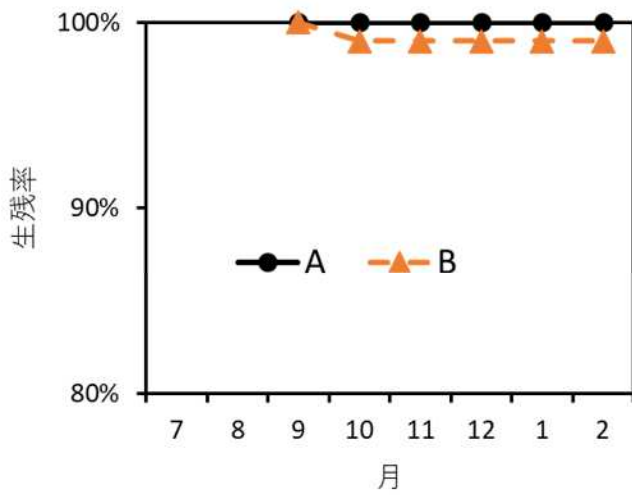


図3 各移植地の生残率の推移

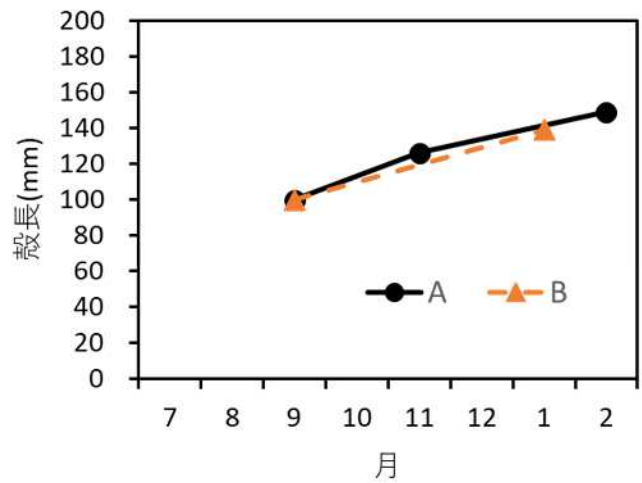


図4 移植地の平均殻長の推移